

平成20年度

紀要

仙台市中学校長会

目 次

巻頭言・・・・・・・・・・	仙台市中学校長会会長 庄子 正剛	1
平成20年度仙台市中学校長会活動方針・・・・・・・・・・		2
1 各部の活動概要		
(1) 総務部・・・・・・・・・・		3
(2) 研究部・・・・・・・・・・		4
(3) 教育課題部・・・・・・・・・・		5
(4) 研修部・・・・・・・・・・		6
(5) 人事部・・・・・・・・・・		7
(6) 情報部・・・・・・・・・・		8
(7) 行財政部・・・・・・・・・・		9
(8) 生徒指導部・・・・・・・・・・		10
2 研究調査等報告		
(1) 研究部・・・・・・・・・・		11
(2) 教育課題部・・・・・・・・・・		18



<巻頭言> 教育改革と校長会の在り方

仙台市中学校長会長 庄子正剛

平成18年12月に教育基本法が改正され、翌年学校教育法等の教育関連三法が成立しました。

また、文部科学省は、19年度から、43年ぶりに「全国学力・学習状況調査」を実施し、そして、20年3月28日に新学習指導要領等を公示、6月13日に新学習指導要領の移行措置を告示しました。

さて、教育改革が進む中、今回の学習指導要領の改訂の経過について、学校サイドから考えてみたいと思います。

戦後、数回の学習指導要領の改訂がありました。その都度感じたことは、学校現場の想いや、願望等は全くと言っていいほど受け入れてもらえなかった印象があり、むなしさを通り越し、文部省に対する怒りさえ覚えた記憶があります。

今回は、今年度の第一回全日中理事会のあいさつの中で草野前会長が力説していましたが、全日中校長会の結束力が、中央教育審議会での審議委員としての発言力を高め、大きな成果を上げる結果に繋がったようです。

その成果と思えるものをいくつか上げてみます。

- ① 確かな学力に関しては、基礎的・基本的な知識・技能の定着とその活用を通して思考力・判断力・表現力等の育成を図るために、必修教科の授業時数の増加と選択教科の実質廃止、そして総合的な学習の時間の縮減。
- ② 道徳教育の教科化に対しては現行通り。
- ③ 部活動について、はじめて総則に記述。
- ④ 各教科等の年間標準時数は波線が減少し、35時間の倍数が基本に。

瞬時に浮かぶところでもこの程度あります。

今回の改訂は、文部科学省も今回はじめて、「ゆとり教育」について反省らしきコメントをしているように、今までになく我々の想いや願いが盛り込まれているものと考えています。

この成果を上げた要因を探ると、それは、校長一人一人が現学習指導要領の主旨を踏まえ、実践の中から得た様々な成果や反省を都道府県の校長会を通し、全日中が集約し、それに基づいて中央教育審議会での建設的な提言として力強く訴えた結果に他なりません。

全国の市町村中学校長会と都道府県中学校長会そして、全日本中校長会が一体となって取り組んだ賜であると思います。

今回の改訂に向けた全日本中校長会の活躍は、今後の本市中学校長会の運営や活動に大いに参考になるものと思います。

また、全日中は「行動する全日中」として、「全日中教育ビジョン」を作成中であります。

教育の現状を分析し、学校が取り組むべき課題を明らかにするとともに、保護者や地域が担うべき教育の役割や、教育行政が学校教育の充実のために果たすべき責任は何か等を整理し、校長として何をどのようになすべきかを示そうとしています。

更に、当面する今日的課題について整理し、全国の公立中学校が取り組むべき具体的目標や提言も、まとめる予定になっています。

本校長会も全日中の活動を参考に、常に市内中学校の現状を分析し、課題把握に努め、その解決に向け活動方針や組織、分掌等の見直しや改変を行わなければなりません。

そして、実践を通して検証した結果やそれに基づく対策を、校長会が一体となって関係機関等に情報発信や提言を行い、理解や協力を求めていくことがこれから必要になるものと考えています。

活力と実践力のある攻めの仙台市中学校長会であることを心から期待します。

最後に、この一年間の会員の皆様のご支援とご協力に心から感謝申し上げますとともに、校長先生方の一層のご活躍をご期待申し上げます。

平成20年度仙台市中学校長会活動方針

今日、わが国では、国際化、情報化、少子・高齢化等の急激な社会の変化に伴い、様々な改革が進められている。

教育基本法の改正及びこれを受けた教育関連法規の制定に加え、義務教育国庫負担の低下や人材確保法の見直しなど、今までにない重要な局面が続いている。

この時に当たり、わたしたちは中学校教育に課せられた責務と市民の期待を深く認識し教育改革の理念を踏まえ、「生きる力」の育成と特色ある学校づくりを推進するために、校長としての職責を一層自覚し、次の重点項目に基づき、本市中学校教育の充実発展に当たる。

1 仙台市中学校長会の機能を一層充実し、活動の活性化に努める。

- (1) 教育改革や経営能力向上のための研修・協議の充実
- (2) 宮城県、小学校、高等学校の校長会との連携強化
- (3) 各部における諸活動の充実と関係各界との連携強化
- (4) 活動内容の市民への積極的な公開と情報発信の推進

2 創意ある教育課程を編成し、学力の向上と個性を生かす教育の推進に努める。

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある教育課程の編成と実施
- (2) 基礎学力の確実な定着を図る指導と評価の改善
- (3) 問題解決能力、創造力を育てる指導の工夫
- (4) 「豊かな心」と「健やかな体」の育成の工夫・改善

3 当面する教育課題の解決に努める。

- (1) 豊かな心の充実を中核とする生徒指導の推進
- (2) いじめの早期発見といじめを許さない学校体制の確立
- (3) キャリア教育の充実
- (4) 安全・安心な学校づくりを目指しての家庭及び地域社会との連携強化
- (5) 学校改善につながる学校評価システムの工夫
- (6) 教職員の適正な評価を通しての資質向上と教育実践に結び付いた現職教育の充実
- (7) 特別支援教育の充実
- (8) 高等学校入学者選抜の改善に対する提言

4 多様な教育活動を推進するため、教育条件の整備・充実に努める。

- (1) 教職員定数の改善及び多様な教育課題に即応した専門職員の配置
- (2) 免許外教科担任の解消と非常勤講師制度の拡充
- (3) 人事異動における地区制等の早期の見直し
- (4) 施設・設備の充実と教材備品の整備

5 教職員の職責に見合う待遇改善の実現に努める。

- (1) 「義務教育費国庫負担制度」及び「人確法」の堅持
- (2) 退職後の福祉制度の維持
- (3) 教職員特殊業務手当の増額

各部活動の概要

総務部

部長 高橋 泰

1 活動目標

仙台市中学校長会の活動の方針を踏まえ、様々な要望や提言の取りまとめを行い、活動計画全体及び各部間の連絡調整を図りながら、会の能率的かつ円滑な運営に努める。

2 活動内容

- (1) 各部会の諸機関等への要望や提言をまとめ、その窓口となる。
 - ① 仙台市教育委員会等への要請書の作成及び渉外に関する事項
 - ② その他の事項
- (2) 年度の活動目標・行事予定・事業計画案を立てる。
- (3) 例会や各種会議等の準備や計画を立てる。
- (4) 各部会間等の綿密な連絡調整を図る。
- (5) 福利厚生や親睦会に関する計画や準備を行い、実施する。
- (6) 教育実習生の受け入れ調査等を行う。
- (7) 市中学校長会総会要項を編集し発行する。
- (8) 中高連絡会に関する事項
- (9) その他

3 活動の概要

- (1) 仙台市中学校長会歓迎会 (H 白萩)
4月 4日 (金)
- (2) 第1回総務部会 (教育センター)
4月10日 (木)
部員顔合わせ、副部長の選出、活動目標、活動計画、係分担等についての検討等
- (3) 第2回総務部会 (H 白萩)
4月21日 (月)
仙台市中学校長会総会の準備等
- (4) 市教委各課への要望書取りまとめ
7月28日 (月)
- (5) 第3回総務部会 (教育センター)
8月28日 (木)
中高 (公) 連絡会の準備

全県一学区制等に伴う諸課題に関するアンケート集約結果についての協議

- (6) 市教委への要望書提出 (市教委)
8月27日 (水)
小学校当番
「新しい職の導入について」の提案
- (7) 中高 (公) 連絡会 (H 白萩)
9月 9日 (火)
中学校当番
- (8) 中高 (私) 連絡会 (H 白萩)
10月28日 (火)
中学校当番
- (9) 小・中校長会合同懇親会 (H 白萩)
12月 5日 (金)
中学校当番
- (10) 全国中学校長会宮崎大会
10月30日 (木)～31日 (金)
連絡調整 (10名参加)
- (11) 大都市中学校長会横浜大会
11月13日 (木)～14日 (金)
連絡調整 (7名参加)
- (12) 東北地区中学校長会宮城大会 (白石)
6月26日 (木)～27日 (金)
連絡調整 (原則全員参加)
- (13) 県・市連絡協議会 (H 白萩)
5月29日 (木)
9月25日 (木)
2月13日 (金)
- (14) 第4回総務部会 (H 白萩)
2月 5日 (木)
年間の反省と次年度の計画等
- (15) その他 (各例会時における準備等)

<総務部員>

部長	高橋 泰	(宮城野中)
副部長	若松 和夫	(生出中)
副部長	伊藤 芳郎	(三条中)
事務局長	鈴木 清和	(五城中)
部員	鈴木 貞一	(高砂中)
部員	伊藤 順子	(西多賀中)
部員	佐藤 好一	(山田中)
部員	櫻井 健五	(中野中)
部員	首藤 真弓	(秋保中)

研 究 部

部長 末 武

1 活動目標

中学校教育の主に教育課程に係る諸課題等についての調査研究を行い、その解決等の方策を探る。

2 活動内容

(1) 平成21年度宮城県中学校長会研究協議会での発表に向けて、教育課程に係る現状分析と諸課題について調査・検討する。

テーマ「創造的で特色ある教育課程の編成と実施」

(2) 平成22年度東北中学校長会研究協議会での発表に向けて、調査研究を推進する。

テーマ「教師力の向上を目指した研修の充実」

3 活動概要

(1) 4月10日(木)第1回部会

- ・活動目標、活動内容の確認
- ・副部長の選出

(2) 5月 1日(木)第2回部会

- ・研究主題の確認
- ・研究のねらい、研究方法、調査の仕方等
研究計画の検討

(3) 6月20日(金)第3回部会

- ・アンケート項目の検討と作成
- ・今後の日程についての確認

(4) 7月 3日(木)

- ・校長会例会にてアンケートの配布

(5) 7月14日(月)

- ・アンケートの回収
- ・学校要覧の提供

(6) 7月24日(木)第4回部会

- ・アンケートの集計

(7) 8月25日(月)

- ・アンケート結果のまとめ

(8) 8月28日(木)第5回部会

- ・アンケート結果のまとめと考察

(9) 9月16日(火)第6回部会

- ・研究をまとめるための検討
- ・担当者毎にまとめる(次回の部会まで)

(10) 11月28日(金)第7回部会

- ・担当者毎にまとめた内容の検討

(11) 12月25日(木)

- ・仙台市教育課題研究発表会で研究発表
発表題:「教師力の向上を目指した研修の充実」
発表:校長 末永精悦(八木山中)

(12) 12月25日(木)第8回部会

- ・平成21年度宮城県中学校長会研究協議会
発表内容の確認と検討(第一次)

(13) 2月 5日(木)第9回部会

- ・20年度の反省と21年度の計画

<研究部員>

部長	末 武	(東華中)
副部長	國井 恵子	(広瀬中)
部員	平 昇	(鶴谷中)
部員	末永 精悦	(八木山中)
部員	千葉奈緒子	(桜丘中)
部員	加藤 純一	(西山中)
部員	曳地 泰博	(将監中)
部員	藤森 幸	(寺岡中)
部員	阿部 英伸	(南中山中)

教育課題部

部長 菊池 義廣

1 活動目標

多様な教育改革が進む中、当面する教育課題を直視して解決すべく調査研究を行い、学校運営に資するよう提言する。

2 活動内容

- 1) 平成20年度仙台市中学校校長会活動方針3「当面する教育課題(1)～(8)」をうけて、仙台市における喫緊の今日的教育課題の分析と検討を行う。
- 2) 課題の絞り込みを行い、部員相互による協議を重ねて提言をまとめる。
- 3) 課題に関して必要な実態調査を行い検証資料とする。

3 調査研究テーマ

高等学校改革が進む中、平成22年度から公立高校の入試制度が変更されることとなった。また、市教育委員会では「自分づくり教育」を土台にした学力向上プランを提示した。

これらを踏まえ、本年度の調査研究テーマを緊急課題である以下の2つとした。

- ・高校全県一区にかかる進路指導のあり方
- ・学力向上にかかる学校の取り組み

4 活動計画と経過

昨年同様、部員が作成したレポートを基に部会で討論を行い、その概要を全会員に発表する形をとった。また、進路指導について全会員の意識調査を行った。

4. 1 0 副部長選出、役割分担、活動内容と計画の確認

4. 2 1 課題の洗い出し

○過去4年間の調査研究テーマ確認

- ・平16 「授業時数の確保」
- ・平17 「公立高校推薦制度」
- ・平18 「小中連携・接続」
- ・平19 「キャリア教育」「標

準学力検査」

○テーマの決定と活動計画づくり

5. 8 進路指導に関するアンケートの実施
6. 2 0 「宮城県全県一学区にかかる進路指導のありかた」について討議
話題提供 八巻・南小泉中学校長
8. 2 8 校長会定例会にて「高等学校全県一学区制に伴う諸課題に関するアンケート」結果を報告
- 1 0. 3 0 「学力向上にかかる各学校の取り組みについて」を討議
話題提供 佐藤・柳生中学校長
1. 1 6 提言内容の確認・検討
2. 5 校長会例会にて提案報告
まとめと反省 次年度計画

5 提案事項の概要

(1) 「宮城県公立高等学校全県一学区にかかる進路指導のありかた」について

- ・進路指導に対する基本姿勢は従来どおり生徒や保護者の希望を尊重
- ・県校長会と連携し、全県規模で早期の進路希望調査の実施
- ・推薦制度の改善・見直し

(2) 「学力向上にかかる各学校の取り組み」について

- ・仙台市標準学力検査結果の有効活用
- ・教科ごとの具体的な取り組みの工夫
- ・教師の生徒への意識的働きかけ
- ・家庭学習の定着と保護者の協力
- ・地域の特性を踏まえた取り組み

<教育課題部員>

部長	菊池 義廣	(岩切中)
副部長	相場 啓司	(館中)
部員	八巻 賢一	(南小泉中)
部員	八柳 善隆	(中田中)
部員	小島 淑子	(中山中)
部員	庄司 光江	(根白石中)
部員	小嶋 正敏	(将監東中)
部員	佐藤 正道	(柳生中)

研 修 部

部長 佐藤 政 男

1 活動目標

- (1) 今日的な課題に即応した学校教育の改善を図るための研修の企画運営を行う。
- (2) 学校運営・経営に参考となる研修の企画を行う。

2 活動内容

- (1) 各種研修の企画と運営を行い、会員相互の研鑽を深める。
- (2) 例会時等の充実した研修の企画と運営を行う。

3 活動の概要

- (1) 4月10日(木) 第1回研修部会
・副部長選出
・活動目標、活動内容、活動計画の検討
- (2) 4月21日(月) 第2回研修部会
・第1回研修会の内容確認、情報交換
- (3) 6月 3日(火) 第1回研修会
内容 ニッカウキスキー仙台工場見学
講演 「産業の現状と人材育成」
講師 総務部長 岡島君夫氏
- (4) 6月30日(月) 第3回研修部会
・第1回研修会の反省、情報交換
- (5) 7月 3日(木) 第2回研修会
内容 学校評価、免許更新について
講師 市教委
- (6) 7月29日(火) 第1回新会員研修会
内容 人事ヒアリング、その他
講師 青沼副会長 高橋総務部長
- (7) 8月25日(月) 第4回研修部会
・第3回研修会について、情報交換
- (8) 8月28日(木) 第3回研修会
講演 「仙台市を取り巻く教育事情」
講師 教育委員長 松坂宏造氏
- (9) 10月 1日(水) 第4回研修会
内容 仙台市天文台見学
講演 「新仙台市天文台の概要について」

講師 仙台市天文台係長 小石川正弘氏

- (10) 10月17日(金) 第2回新会員研修会
内容 人事異動について
講師 沼田人事副部長
- (11) 11月 7日(金) 第5回研修部会
・第5回研修会について、情報交換
- (12) 12月 5日(金) 第5回研修会
講演 「中学校のキャリア教育に期待するもの」
講師 アイリスオーヤマ(株)
総務部マネージャー 大友清之氏
- (13) 1月 9日(金) 第6回研修部会
・第6回研修会について、情報交換
- (14) 1月16日(金) 第6回研修会
内容 新学習指導要領の移行について
自分づくり教育の今後
講師 教育指導課長 庄子修氏
- (15) 2月 5日(木) 第7回研修会
内容 特別支援教育の実践発表
発表者 佐山第二中学校長
國井広瀬中学校長
- (16) 3月 4日(水) 第8回研修会
内容 各部より年間の取り組みについて
- (17) 3月 4日(水) 第7回研修部会
・平成20年度の反省
・平成21年度計画立案
・情報交換

4 課題

- (1) 研修内容と講師の選定に苦慮した。
- (2) 次年度は情報交換を含む内容の研修を計画しても良いのではないか。

<研修部員>

部 長 佐藤 政男 (上杉山中)
副部長 佐藤 淳 (台原中)
部 員 新山 弘幸 (沖野中)
部 員 大内 吉基 (長命ヶ丘中)
部 員 門間 咲枝 (茂庭台中)
部 員 澁谷代志子 (田子中)
部 員 高橋 弘二 (附属中)

人 事 部

部長 大 友 光 好

1 活動目標

人事に関する課題の解明と適正化に努める。

2 活動内容

(1) 人事に関する調査を行い、現状と課題等を把握する。

- ① 職員構成
- ② 現在校勤務年数別人数
- ③ 新採用教職員配当状況
- ④ 人事に関する要望事項他

(2) 人事調整会の運営を行う。

- ① 人事調整会資料の作成
- ② 人事調整会の運営

3 活動概要

(1) 第1回部会 4月10日(水)

- ・副部長選出、役割分担
- ・活動目標と内容の検討
- ・年間活動計画の立案

(2) 第2回部会 5月19日(月)

- ・「人事に関する調査」の項目・内容の検討

(3) 第3回部会 6月23日(月)

- ・「人事に関する調査」の集計作業

(4) 第4回部会 7月1日(火)

- ・調査結果のまとめと印刷・製本

(5) 市校長会例会 7月3日(木)

- ・「人事に関する調査」結果の報告

(6) 第5回部会 9月17日(水)

- ・本年度調整会の運営方針の検討
- ・新会員研修会の運営

(7) 新会員研修会 10月17日(金)
・人事異動関係研修

(8) 第6回部会 11月18日(火)
・「人事異動基本調査」の検討・作成

(9) 市校長会例会 12月5日(金)
・「人事異動基本調査」の依頼

(10) 第7回部会 12月18日(木)
・「人事異動基本調査」の集計
・調整会の資料作成、運営方法、役割分担
・市教委との打合せ

(11) 臨時校長会（調整会）
1月9日(金) 於：ホテル白萩

(12) 第8回部会 3月4日(水)
・平成20年度部会の反省
・平成21年度の活動計画

<人事部員>

部長	大 友 光 好	(東仙台中)
副部長	沼 田 茂 雄	(幸 町 中)
部 員	伊 藤 喜 壽 雄	(五 橋 中)
部 員	山 田 恵 嗣	(人 来 田 中)
部 員	櫻 井 健 二	(大 沢 中)
部 員	藤 田 潤 吉	(吉 成 中)
部 員	橋 本 和 康	(松 陵 中)

情報部

部長 小野友良

1 活動目標

- (1) 必要に応じて適切な情報を会員に提供し、また、資料の収集と保存に努める。
- (2) 広報業務の整理と仙台市中学校長会HPの管理・更新に努める。

2 活動内容

- (1) 仙台市中学校長会の広報活動を推進し、記録や報告を通して活動の理解と活性化に努める。
- (2) 仙台市中学校長会の広報活動に関する記録や報告のIT化を推進する。
- (3) 仙台市中学校長会HPの管理・更新を図る。

3 活動の概要

- (1) 第1回情報部会 4月10日(木)
平成20年度「情報部組織、活動目標・活動内容」の確認。副部長の選出
- (2) 第2回情報部会 4月21日(月)
情報部会開催日、活動内容の確認(HP作成、及び更新コンテンツ等作成、紀要作成)
- (3) 第3回情報部会 5月28日(水)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成、他
- (4) 第4回情報部会 7月3日(木)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成、他
- (5) 第5回情報部会 8月28日(木)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成、他
- (6) 第6回情報部会 10月1日(水)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成
仙台市中学校長会「紀要」編集計画の検討、他
- (7) 第7回情報部会 11月4日(火)

仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成、他

- (8) 第8回情報部会 12月5日(金)
仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等の作成、仙台市中学校長会「紀要」原稿依頼
- (9) 第9回情報部会 1月16日(金)
仙台市中学校長会「紀要」校正、仙台市中学校長会HPの更新、コンテンツ等作成
次年度「活動目標、活動内容」等検討
- (10) 第10回情報部会 2月5日(木)
仙台市中学校長会「紀要」二次校正、仙台市中学校長会HP更新、コンテンツ等作成
次年度「活動目標、活動内容」等検討
- (11) 第11回情報部会 3月4日(水)
仙台市中学校長会「紀要」完成・配付の準備
今年度の反省と次年度の計画の再確認

4 その他

仙台市中学校長会「紀要」の発行については、昨年度からCD化を行っている。

<情報部員>

部長	小野友良	(愛宕中)
副部長	熊谷繁	(鶴が丘中)
部員	永野幸一	(八軒中)
部員	吉田誠	(折立中)
部員	片倉景範	(七北田中)
部員	内誠	(高森中)
部員	小野寺康一	(南吉成中)

行 財 政 部

部長 千 田 一 敏

1 活動目標

- (1) 学校運営に関する課題の解明と適正化に努める。
- (2) 財務内容について検討し、経理を適正に執行する。

2 活動内容

- (1) 学校運営に関する調査を行い、提言・要望をまとめる。
- (2) 年間予算案を提示する。
- (3) 収入・支出状況の把握と中間決算報告を行う。
- (4) 決算報告を行う。
- (5) 財務内容について検討し、次年度の活動計画と予算案の作成を行う。

3 活動概要

- (1) 臨時校長会・統合部会
4月10日(木)
 - ・活動目標作成
 - ・19年度決算と監査及び20年度予算案の作成
- (2) 仙台市中学校長会総会
4月21日(月) ホテル白萩
 - ・19年度決算と監査報告
 - ・20年度予算案の提案と承認
- (3) 行財政部会
5月2日(金) 北仙台中学校
 - ・学校運営の課題について
 - ・会費及び負担金等の集金計画について
- (4) 仙台市中学校長会・仙塩地区高等学校長会連絡会
9月9日(火) ホテル白萩
 - ・会費集金と収支報告書の作成
- (5) 監査会
9月26日(金) ホテル白萩
 - ・中間監査

(6) 校長会10月例会・研修会

10月1日(水) 仙台市天文台

- ・中間決算と監査報告

(7) 仙台市中学校長会・私立高等学校連絡会

10月28日(水) ホテル白萩

- ・会費集金と収支報告書の作成

(8) 20年度決算見通しと21年度予算及び計画の検討開始

2月5日(木)

(9) 21年度予算原案提示

3月4日(水)

(10) 行財政部会

3月4日(水)

- ・20年度の反省及び21年度計画

(11) 監査会

3月12日(木) ホテル白萩

- ・20年度会計監査

<行財政部員>

部長 千 田 一 敏 (北仙台中)

副部長 鹿 野 良 子 (加茂中)

部 員 布 施 俊 雄 (七郷中)

部 員 渡 邊 次 雄 (蒲町中)

部 員 山 田 和 行 (南光台東中)

部 員 村 上 涉 (住吉台中)

生徒指導部

部長 藤代正倫

1 活動目標

- (1) 積極的な生徒指導の推進と心の教育の充実
～生徒指導上の今日的課題の解明とその対策～

2 活動内容

- (1) 大都市特有の生徒指導に関する諸問題の調査研究
(2) 関係諸機関との行動連携の強化
(3) 学校間の連携と情報交換の緊密化
(4) 特別支援教育の現状と課題について調査研究の推進
(5) 家庭・地域との連携による生徒の安全対策の推進
(6) 中学校体育スポーツに関する事項

3 活動の概要

- (1) 第1回部会 4月10日(木)
①正副部長の互選
部長 藤代正倫(仙台中)
副部長 志賀野 博(八乙女中)
②活動目標、内容、組織の検討
③生徒指導主事連絡協議会、校外指導連盟の事業・計画
(2) 第2回部会 7月15日(火)
「仙台市青少年対策4機関・小中学校長会生徒指導合同会議」

(仙台市子供相談支援センター)

- ①緊急対応について
・仙台市教育委員会教育相談課生徒指導班
・ 〃 〃 〃 教育相談班
・仙台市児童相談所
(3) 第3回部会 8月1日(金)
仙台市小・中学校長会生徒指導合同部会
(研修会 ……ホテル白萩)
① 紺野利次 (南中山小)
提言「望ましい幼保・小・中学校間の連携の在り方」
② 三浦亮 (郡山中)
提言「学校が立ち直るまでの検証」
(4) 第4回部会 8月29日(金)
①活動目標、内容、計画の確認

②調査研究事業計画の検討・確認

③役割分担の確認

- (5) 第5回部会 1月20日(火)
①各部生徒指導連絡協議会の持ち方
(6) 第6回部会 3月4日(水)
①本年度の事業計画の振り返り
②次年度計画の検討
(7) 生徒指導管外研修

10月30日(木)～31日(金)

①三越日本橋本店視察

苦情・クレマーへの対応

横浜市教育委員会視察

社会的スキルの育成

②関東医療少年院視察

- (8) 仙台市生徒指導主事連絡協議会運営
6月6日(金)、9月2日(火)、
1月20日(火)、2月16日(月)
・全市、各部との情報交換
・関係諸機関との情報交換
・中総体、長期休業、入試対策
(9) 仙台市校外指導連盟運営
・校外での生活指導と事故防止対策
(水難事故、交通事故、繁華街での事故、その他)
・中総体期間中の事故防止対策
(対策本部設置・市内4ヶ所)
・危険箇所の確認と巡回指導 ほか

< 生徒指導部員 >

部長 藤代正倫 (仙台中)
副部長 志賀野 博 (八乙女中)
生徒指導主事連絡協議会全市部長
部員 熊谷祐彦 (六郷中)
仙台中教研生徒指導部会長
部員 三浦亮 (郡山中)
いじめ問題対策懇談会委員
部員 米澤通徳 (袋原中)
仙台市校外指導連盟会長
部員 菅原賢二 (南光台中)
仙台市校外指導連盟副会長
部員 堀江謙一 (向陽台中)
いじめ問題対策懇談会委員
部員 高野仁士 (広陵中)
仙台市校外指導連盟監事

研究調查報告

仙台市中学校の「創造的で特色ある教育課程の編成と実施」について

— アンケート調査結果の分析から —

校長会 研究部

I はじめに

心身共に健康な社会の形成者として、未来をたくましく切り拓いていく「生きる力」を身につけた生徒を育成していくための学校教育には、次の3つの視点が不可欠である。

- ① 中・長期的な展望に立った学校経営
- ② 知・徳・体の調和の取れた創造的で特色ある教育課程の編成・実施に努め学校評価に基づいた改善を進めていく。
- ③ 小・中学校の円滑な接続を目指す教育課程の工夫・改善

本研究ではこれらの視点の中で特に②の視点を中心にアンケート調査を行い、その結果を主に校長としての立場から分析し考察することによって、今後の学校経営の一助になることを期待したい。

II 研究のねらい

10年前の学習指導要領の改訂の際に4つの方針が掲げられた。その中で、とりわけ注目されたのが4番目の項目「④各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること」であった。各学校はこの基本方針を受けそれぞれに創意工夫を生かした教育活動を展開してきた。

今回、本研究部においては、「教育課程」全般に関しての調査を行い、その中で各校の「創造的で特色ある教育課程」の編成についての実態を探り、その実態を明らかにすることによって、様々な事例をお互いに共有し、平成24年度からの新教育課程のスタートを視野に入れつつ、校長として自校の教育課程編成を行う上での参考となることを期待するものである。

III 研究の方法

本研究を進めるために行った方策と実践について述べる。

- 1 研究主題「創造的で特色ある教育課程の編成と実施」をどう捉えるか。

本研究を進めるに当たり、研究主題を具体的にどう捉えるかを検討しておく必要がある。

広辞苑を参考にすれば、

「創造的で特色ある」とは、

新たにつくりあげた、他（今まで）と異なる、他（今まで）より優れていると考えられるもの、

と解釈することが出来、また、学習指導要領によれば、

「教育課程の編成」とは、

- (A) 教育目標の設定
- (B) 指導内容の組織
- (C) 授業時数の配当

が基本的な要素になってくると述べられている。

これらを参考に、研究部において検討を重ねた結果、「創造的で特色ある教育課程の編成」について、次の観点から、研究を行うこととした。

「創造的で特色ある教育課程の編成」とは、

- (A) 地域や学校の実態等に即した教育目標の設定に関して

- ① 目標を設定するまでの過程を中心に
- (B) 指導計画を作成し実践することに関して
 - ① 校長としていかに係わるか
 - ② 各教科の指導内容や指導方法に工夫すること
 - ③ 各教科以外の指導計画及び実践に関する工夫をすること

- (C) 授業時数を確保するために

- ① 時数を確保するための工夫
- ② 週28コマ以外での運用の工夫
- ③ 1時間の授業を50分以外で実施することの工夫

- 2 アンケート調査項目の決定

アンケート調査項目については、貴重な調査の機会でもあることから広く教育課程全般にわたる項目に関する調査とすることとした。調査項目に関しては以下の通りである。（原文か

らの要約)

- (1) 教育課程編成上の課題とその改善策
- (2) 教育課程の編成に当たって組織マネジメントの観点から工夫したこと
- (3) 本年度の特色ある教育活動
- (4) 本年度の学力向上に向けての取組
- (5) 昨年度の予定時数と実施時数及び本年度の予定時数
- (6) 本年度の週時程
- (7) 本年度授業時数確保のための工夫(選択肢)
- (8) 日課表・週時程の弾力的な編成と運用(選択肢)
- (9) 前質問の中で授業時数としてカウントしているもの
- (10) 昨年度及び本年度における長期休業中に実施した授業日数
- (11) 移行措置における特色ある教育活動の維持のための工夫

3 アンケート調査の実施と回収

調査は「…研究を進める上で、それぞれアンケート調査を実施し、今後の研究に生かして参りたいと思います。」という趣旨の平成20年7月3日付け文書で依頼し、7月14日までに回収した。市内全中学校の協力を頂いた。

4 アンケート調査の集計と分析

集計は研究部において各項目毎に分担して行われた。その後、集計結果毎に担当を決め分析作業を行い、後日分析結果を持ち寄り検討することとした。

分析は各担当からの報告の後、さまざまな角度から議論を行った。その後、Ⅲ-1の(A)～(C)の担当を新たに決め、各担当が(A)～(C)のテーマに沿った分析を行う事とした。また、必要に応じて追加調査を行い具体的な事例等の情報収集を行った。

以下の「調査結果から」に関しては、アンケート調査結果からⅢ-1の(A)～(C)の項目に沿った視点でまとめることとした。

IV 調査結果から

Ⅲ-1の(A)～(C)の各項目に関して、集計結果、分析、具体的事例等について紹介してい

きたい。

なお、その後の検討で直接聴き取り調査を行った事例に関しては、A中学校・・・等の表記で紹介する。

(A) 地域や学校の実態等に即した教育目標の設定に関して

今回の調査で、教育目標を新たに設定した学校は見当たらなかった。そこで、教育目標の実現に向けて、校長としての組織マネジメントをどのように行ってきたかについて、抽出した5校に直接出向き、資料の提供等を受けながら聴き取り調査を実施した。

調査の内容については、学校像・生徒像・教師像や学校課題等をどのように捉え、そこから学校としての重点努力目標や具体的な指導事項を教職員が組織としてどのように形成していったかを聴き取りした。その前提として校長としての学校経営に関する理念や方針についての説明も受けたが、これから紹介するのは特に教育目標の設定という視点からの具体的な事例である。

○A中学校の例

平成18年度、前校長が着任し、学校運営スローガンを「学校行事を通して心をつなぎコミュニケーション能力を高める教育活動」と設定した。人とのつながりが希薄で表現力に乏しい生徒の実態等を鑑みて、スローガンの文言では「心をつなぎ」「コミュニケーション能力」をキーワードとし、それを何を通して育てていくかというものを頭(「学校行事」)に置いた。校長として実態を捉えるための情報源は、自らの観察と週1回の主任会や学校評価で抽出された内容であった。また、学校行事としてはA中の三大行事(運動会：7月上旬、文化祭：9月上旬、合唱祭10月末)に焦点を当てた。

なお、このキーワードは、生徒のみでなく、保護者や職員にも通じるテーマであると前校長は考えていた。集うことによりつながりを持たせていきたいと考えた。

○B中学校の例

1 プロジェクトチーム(小委員会)の設置

- (1) 背景として次の状況があった。

① 総合的な学習の時間のプランを構築して3年目を迎えており、見直しと点検確認の時期となった。

② 人事異動で10数名の職員が異動となったことを契機に、これまでの取組を見直しする機会ともなった。

2 プロジェクトチームを起点とした作業の流れ

① 生徒像に関するアンケート（職員）→アンケートの集計

② 生徒の実態と目指す生徒像についての話し合いアンケート結果をもとに、部会ごとKJ法的にカードを活用して分析する。なお、学力調査や生活調査等の結果データも参考にするようにした。

その際、文章というよりはキーワードで提示するようにした。このキーワードは、次年度計画を各担当が作成する上での共通認識とした。

③ 提示されたキーワードに基づいて各担当で次年度の計画を立案する。

具体的には、平成19年度は「人とかかわる力」「コミュニケーション能力」をキーワードとして明確にし、総合的な学習の時間の計画や各教科の研究主題等にて共通認識しながら実践に取り組んだ。

○C 中学校の例

1 学校評価（自己評価、学校関係者評価）システムを生かした取組

(1) システム構築のための事前調査に教務主任を派遣した。

(2) 評価結果をもとに、校務分掌の各部会で改善策等を検討する。（1月）

なお、学校評価やアンケートを実施（12月）する前に、事前打合せとして第1回の検討部会をもち（11月）、評価項目等の吟味を行っている。

(3) 職員での会議は、前半の部（教務部、生徒指導部、管理部）と後半の部（研究学習部、保健安全指導部、事務部）に分けて実施した。

(4) 上記(3)で各部で検討する際は、「学校改善

(5) 上記(4)での作業結果を受け、次に「学校

改善に向けた実効策検討シート②」を活用した。

上記(4)での改善策一つ一つについて、それぞれ「なぜ」「誰が」「誰に」「何を」「どのように」「いつまでに」「予想される効果」「留意点」を検討し表にして示した。（第3回の検討部会）

(6) 各部会で検討された改善策等は、学校関係者評価委員会にて審議される。（2月）

(7) 学校関係者評価委員会の構成メンバーは、学校評議員5名、PTA役員4名であった。学校関係者評価は、学校評価の集計・分析結果だけでなく、上記(5)の結果、次年度への改善策等が提示されたものを同じ用紙に記載した表を委員に提示し、意見・感想等を入れてもらうようにした。（資料⑫）

(8) 上記(7)の結果を受け、職員会議にて協議して共通理解を図ったうえで、教育計画への展望を示し、各担当が起案を作成する。（3月）

H20年度から学校評価の集計をするための機器・ソフトを購入準備した。

○D 中学校の例

1 プロジェクト型の委員会の設置による取組

(1) 取組の経緯

平成13・14年度、市教委の自主公開校となったことを契機に、職員のプロジェクト型の委員会を起動させ、職員の自主的なアイデアを生かした学校経営により学校を活性化させようとしたことが発端であった。

(2) 運用の仕方

何かアイデアを持った教師が、職員に呼び掛けてプロジェクト委員会を発足させ、その検討結果を全職員に提案して了解を得た企画を実現させていくこととなる。

プロジェクトは、発足も自由なら脱会解散も自由で構成員を固定化せず、職員の創造性と切磋琢磨による学校の活性化をねらった仕掛けである。

(3) プロジェクトの型

① プロジェクトA

分掌のチーフが企画立案し、その関連した職員、その他賛同する職員を募って立ち上

げる。

② プロジェクトB

既存の枠組みの分掌を超えて、アイディアを持った職員が主体的に立案し、賛同する職員を募って立ち上げる。

(4) これまで立ち上がったプロジェクト

通信表プロジェクト、評価プロジェクト、授業アンケートプロジェクト、年間行事プロジェクト、スポーツ大会プロジェクト等々

○E 中学校の例

1 キャッチフレーズ（職員の合い言葉）の教育活動全般への徹底

(1) キャッチフレーズ 「ハートフルE中」

(2) キャッチフレーズをもとに、教育活動全般に「話し合い活動」を核とした活動を実践させ、高め合う学習集団の育成を図った。

(3) 平成 18・19 年度に市教委認定の自主公開校となって取り組んだ。

(4) SGE, PAの手法を取り入れた人間関係づくりを道徳や特活で計画的に実施し、教科授業の中でもその手法を生かした話し合い活動を取り入れた。

(5) QUテストを導入し、その結果を学年会で検討し教科の指導に生かした。

(6) キャッチフレーズのもと、その年度に取り組む重点領域を示した。

2 H20 年度は、特別支援学級にかかわる教育活動を実施した。

以上の例から、校長が効果的な手法を用いながら、学校の実態を多角的な方面から把握し、そこから抽出された学校課題に向けて経営方針や重点的な取組を構築し、それを職員間で共有させ集団思考の手法を用いながら学校経営に当たっている学校経営状況を具体的に知ることができた。具体的な取組は各校異なっているけれども、職員一人一人が学校運営に当事者意識を持ちながら意欲的・主体的に参画させていくための工夫や仕掛けをしながら、職員の集団凝集性や帰属意識を高めていこうとしていたことは共通していた。

(B) 指導計画を作成し実践することに関して

1 校長としていかに係わるか。

校長として具体的な計画の作成に係わることは少ない。そこで、計画作成に取りかかる前段階でどのような係わりを行っているのかを具体的な例を参考に探っていきたい。

○F 中学校

指導計画を作成する前に、学校全体の実態等を把握し、学校長から例えば次のような指示を出す。

- ・学習前の環境を整える。
- ・学力向上の前に道徳教育の充実させる。
- ・学級づくりのための調査を行う。
- ・学力向上時間の特設。

○G 中学校

職員の共通理解、温度差の解消を目指し、次のような構想を練り実施した。

- ・学校教育目標が目指す理想の生徒像について、生徒の現状（良い面、課題）を全職員に調査し集約する。
- ・集約結果をもとに全職員でどのようにしていけば理想の生徒像に近づくかに関する話し合いを持つ。
- ・プロジェクトチームを立ち上げまとめの作業を行う。
- ・次年度へ向けての大きな目標を設定する。
- ・この目標を受けて次年度の計画を立てさせる。

○H 中学校

学習状況調査の結果から、A問題、B問題のうち、B問題の能力が高いという結果が出た。なぜ、B問題の能力（応用力）が高いのかを検証する必要があると判断し、研究項目とすることにした。研究に際しては、実務的な視点を重視した。

○I 中学校

学力向上検討委員会の立ち上げを指示し、学力検査の結果を受け、具体的な方策を検討する場とした。

○J 中学校

指導計画等に対して校長として、次のようなアドバイスをを行った。

・研究授業に関して、教育センターの訪問回数には限界があるので、研究授業それぞれの教科について各中学校の校長先生(その教科が専門)に参観してもらい、検討会で指導してもらえよう計画準備した。

・大学の研究室と連携し、教授から指導計画、授業へのアドバイスをお願いした。

・教員OBの方をお願いし、週1回授業、指導法等についてのアドバイスを頂く。

2 各教科の指導内容や指導方法に工夫すること。

指導内容にそのものに関しては、学習指導要領に示されており、特に工夫したという事例は見られなかったが、全国学力テスト、仙台市の標準学力テストの結果をもとに基礎的な学力の定着・補充を中心とした以下のような取り組みが見られた。

・全国学力テスト、仙台市の標準学力テストの結果を指導計画の見直しに活用。

・検査結果をもとに各教科で重点項目を決めて取り組む。

・選択授業で特に5教科は補充を中心に実施。

指導方法の中で一番多かったのは少人数指導・TTの充実(22校)であった。英語・数学における少人数指導・TTにおける指導については各学校で取り組んでいる。数学と英語における習熟度別学習形態を取り入れている学校(8校)もある。

○K中学校の例

数学の少人数指導に関して、昨年度の均等分割の指導法では、効果が期待できないという指摘をうけ、習熟度別指導を導入し計画を作成するように指示した。

3 各教科以外の指導計画及び実践に関する工夫すること。

教科以外の指導計画及び実践に関して、選択教科、特別活動、総合的な学習の事例を紹介する。

○L中学校(選択教科)の例

2年選択音楽において篠笛の演奏に取り組んで

いる。週一時間、地域の方(保存会)3名の社会人特別非常勤講師として、技術指導を依頼している。

○M中学校の例(選択教科)

2・3年の選択教科の一部に、外部講師(地域の愛好者や保護者)を指導者とした講座を設定し、地域の伝統芸能(剣舞、和太鼓)や日本の伝統文化(藍染め、茶道)を学んでいる。

○N中学校の例(総合的な学習)

小規模校の良さを生かし、学年の枠を外した活動を行っている。学習したいテーマ毎に仲間を募り調査研究などを行っている。そのテーマのひとつとして伝統芸能の継承活動として、「鹿踊・剣舞」に取り組んでいる。地域の保存会の方を講師として練習に取り組んでいる。

○O中学校の例(総合的な学習)

総合的な学習の体験的学習のひとつである「身近な環境と自分」というテーマの活動に開校10周年を記念して作った「10周年の森」を活用している。

○P中学校の例(学校行事・生徒会)

体育祭の一切を生徒(生徒会・体育祭実行)が自主的に運営する行事。縦割りによる集団活動である。3年生が中心となって中学校最後の行事を成功させようとする熱意が伝統となっている。

○Q中学校の例(小・中連携)

中学校の教員が小学校で指導(数学・理科・体育)し、小学校の教員が中学校で指導(道徳)を行った。また、児童会・生徒会の交流や生徒による中学校の説明会などを実施した。小・中教員の交流が図られ、情報交換が以前よりスムーズに行われるようになり、中1ギャップの解消にも役立つようである。

選択教科や総合的な学習において、地域の財産を生かす取組の例を紹介したが、この際、「校長としてどのような配慮・工夫をしていますか。」という、問いに対して、「地域の方々との連携を重視している。保存会の方々は夏休み中でもボラ

ンティアとして指導してくれるので、必ず顔を出して挨拶しているようにしている。」とか「これらの学習活動は、学校の生徒や教職員だけでは出来ない活動であるという認識が必要である。地域との連携、地域の人材の活用、PTAの理解と支援など、組織的な取組・連携に配慮した計画・実践が必要である。」と答えている。

また、小中連携に関しては、有効かつ継続可能と思われるものは実施してきたとして次の3点を挙げていた。

- ①授業や研修などの相互交流
- ②児童・生徒の交流（相互理解，中1ギャップの解消）
- ③教員同士・学校間の情報交換

なお、新教育課程において、選択教科が削減されることに関しては、「総合的な学習の時間で実施できるか検討中である。」とか「活動内容の精選と合理化が必要だが、具体的な取組や方向性については検討中である。」との回答であった。

(C) 授業時数を確保するために

- 1 時数を確保するための工夫
 - ・夏季休業中の授業実施（19校）
 - ・会議の精選（6校）（職員会議の隔月化，長期休業へ）
 - ・時間割り変更による補欠授業の克服（4校）
 - ・2通りの時間割りで（4校）（3通り，4通り，シラバス，偏りのない時間割り）
 - ・行事の精選（4校）（長期休業へ，キャリア教育のため特色ある活動の一部削除）
- 2 週28コマ以外での運用の工夫
 - ・週29コマで対応（13校）（時期によりも含む，週により時数を変更，柔軟な時間割）
 - ・週30コマで対応（3校）
 - ・7時間で対応（1校）（11月以降）
 - ・45分7時間の実施（1校）
- 3 1時間の授業を50分以外で実施することの工夫。
 - ・45分7時間の実施（1校）
 - ・モジュールによる対応（10分×・・・，15分×・・・、選択教科を朝学習で）（4校）

○R中学校の例（45分7時間）

校長が授業時数の確保，学習効率の向上，給食開始時刻を早める等の観点で以前から構想を練っていた。市教委から実施可能であるとの確認を得、半年前から準備に取りかかった。いろいろな場合を想定したシミュレーションを重ね実施に踏み切った。要点は以下の通りである。

- ・45分で週33コマ 7時間の日が3日
- ・7時間目はすべて総合的な学習の時間
- ・50分28コマより1週あたり85分上回る。
- ・増えた時数は5教科を中心に増やす。
- ・授業の長さより回数を多くすることによって学力の定着を図る。
- ・帰りの会は50分授業の時より10分遅れる程度。

夏季休業中の授業実施に関しては、特に3年生において33校が昨年度より授業時数を増やしていることが注目される。平成21年度は今年度に比べ休日数が4日間増える。この傾向はますます大きくなるものと予想される。

週あたりの時間数も28コマだけの対応では難しくなっているように思われる。

1時間あたりの授業時間は45分の授業は極力50分にしていこうとする傾向が強くなってきている中45分7時間という取り組みは注目に値する。移行期を控え時数確保の問題は今後とも検討を必要とする重要な課題である。

V 研究のまとめ

今回のアンケート調査項目（1）「教育課程編成上の課題とその改善策」の課題に関する上位は次のようであった。

- | | |
|-----------|-----|
| ① 授業時数の確保 | 48校 |
| ② 学力向上 | 20校 |
| ③ 学校行事 | 13校 |
| ④ 自分づくり教育 | 11校 |

教育目標を課題として上げた学校は4校にとどまったが、新学習指導要領への移行を目前に（A）「地域や学校の実態等に即した教育目標の設定」は今後重要な課題となっていくことであろう。

また、①を（C）「授業時数の確保」、②～④を（B）「指導計画の作成と実践」として捉えれば今回の調査分析は教育課程編成上の課題に対する解答と考えることも出来る。また、創造的で特色ある教育課程の様々な事例は今後の教育課程作成に際して多いに参考になることと期待される。

今回の研究は主題の分析と調査項目の設定とが同時進行的に行われたためやや一貫性に欠ける部分もあるが、各校長先生方の協力により、貴重な資料を得ることが出来た。協力を厚く感謝申し上げますとともに、この研究が今後のために役立つことを願う次第である。

「公立高等学校全県一学区にかかる進路指導」について

校長会教育課題部会

1 はじめに

これまで、多くの公立高等学校では、過度の受験競争を抑制したり、通学の負担軽減を図ったりするため、普通科に「通学区」を設置し、居住する学区外からの通学を原則として禁止してきた。

ところが近年、全国的に制度の見直しが進められてきており、宮城県においても、平成22年4月入学生から学区制を廃止し、全県一学区にすることとなった。

この制度改正は、高校統合、学科再編、中等教育学校新設など、高校教育改革の大きなうねりの中で実施されようとしているが、中学校における進路指導のあり方にも様々な影響を及ぼすものと予想される。

そこで、学区制廃止に伴って生まれる中学校における進路指導の課題について検討することとした。

2 協議の中で話題になったこと

(1) 制度改正によって何が変化するか

- ・ 仙台市内の高校に希望が集中し、周辺地区の高校は定員割れが加速するのでは。
- ・ 周辺地区から仙台市内の高校を強く希望する家庭は、既に居住地を変えるなどの対応をしているので、制度改正による変化は予想より小さいと思われる。
- ・ 進路選択では交通の便も重要である。地下鉄やJR沿線など、交通の便がよい一部の学校では、仙台市内外を問わず、学区を越えて志望校を選択する生徒が増加すると予想される。

(2) 制度改正により進路指導はどう変わるか

- ・ 進路指導の基本はこれまでと変わらない。従来どおり、生徒の志望を第一優先にして取り組むべきだ。
- ・ 高校側が特色ある学校づくりを行おうとしても、保護者や生徒が大学進学率だけに注目するため、高校によっては特色を出し切れな

いでしまうのではと懸念される。

- ・ これまで、学区間格差が指摘されてきたが、これからは学校間格差が課題となる。高校の特色ある教育課程がより重要となるだろう。
- ・ 生徒のニーズに合った多様なコースの設置やサポート校の大幅な増加など、進路の環境は十年前と大きく変化している。この傾向は今後一層進展すると思われるので、現状を踏まえた進路指導が重要となる。

(3) 進路指導のためのデータについて

- ・ 今回実施したアンケートによれば、市内の半数以上の学校が、現在の校内実力テストで（制度改正後も）対応できると回答している。このことは、生徒が学区内の高校への進路に満足している証拠でもある。従って、これらの学校では、進路指導のためのデータに関して大きな不安はないと推察できる。
- ・ 学区廃止と同様、中等教育学校の新設、男女共学化、コース新設なども進路指導のデータに影響を与える。それらの学校の志望者数を把握することが望まれる。
- ・ 交通の便利な地区にある学校では、他学区への進学者数の増加が予想されるので、進路データの不足になるとと思われる。早期の志願者数把握が重要となる。

3 提言

(1) 進路希望調査の実施

市校長会と県校長会が連携し、三者面談開始前の10月など、早い段階で進路希望調査を実施して、（従来の）他学区からの志願者数を把握することが望ましい。

(2) 高校の教育活動の一層の把握

多様化の進む高校の現状を踏まえ、適切な進路指導を行うためには、これまでより一層高校の教育内容を理解することが望まれる。また、そのための具体的手段も重要である。更には、高校のPR活動の充実も期待したい。

「学力向上にかかる各学校の取り組み」について

校長会教育課題部会

1 はじめに

仙台市では、平成19年度から独自の標準学力検査を実施するとともに、その結果と各学校や市民の意見を踏まえて、学力向上プランを作成した。現在、市内の各学校は、このプランを基に学力向上のための様々な取り組みを工夫・展開しているところである。

この工夫・展開は、学校の実情や地域の特性を考慮して、各学校が主体となって進めるべきことではあるが、他校の取り組みを参考にしたり、分類したりすることによって、新たな視点が生まれ、一層効果的な工夫改善を行うことができるものである。

そこで、学力向上にかかる各学校の取り組みについて検討することとした。

2 協議の中で話題となった取り組み

取り組みを観点別に分類すると、次のとおりであった。

- (1) 校長のリーダーシップの観点から
 - ・ 教員への具体的取り組みを促す手だてとして、「学力向上のために、授業中具体的に何をどのように行っているか」を個人毎にアンケート形式で質問
 - ・ 教員の具体的取り組み内容を校長に報告
 - ・ 評価システムと連動させ、校長面接では学力向上の具体的取り組みを話題に
 - ・ 取り組みの検証を文書（メモ程度）で実施
- (2) 教師の授業力向上の観点から
 - ・ 研究授業の実践（一人あたり学期一回）
 - ・ 職員全員による授業実践
 - ・ 授業反省会のテーマに「学力向上」を
- (3) 時間確保・工夫の観点から
 - ・ 早朝7時30分からの補習授業
 - ・ 放課後居残り勉強会
 - ・ テスト前の放課後学習会
 - ・ 朝自習、朝読書の工夫
 - ・ 朝の10分間、選択教科の実施
- (4) 家庭学習の定着の観点から

- ・ 「〇〇ノート」を毎日担任に提出
 - ・ 宿題を意図的、計画的に
 - ・ 自由勉強ノート
- (5) 小中の連携の観点から
 - ・ 小中連絡会では、分科会に「生活指導」などのほか「学習・学力」の分科会を設置
 - ・ 年2回の教員同士の小中交流授業参観
 - (6) 保護者・保護者会への働きかけの観点から
 - ・ 標準学力検査の分析結果の公表
 - ・ 保護者向けの「校内における学力向上に関する具体的取組」を学年毎に発行
 - (7) 学力向上を保障する取り組みの観点から
 - ・ いじめ・不登校への取り組み
 - ・ 人間関係能力向上プログラムの実施
 - (8) 基礎学力向上の観点から
 - ・ 学校全体で「漢字書き取り」等
 - ・ 少人数指導の多様な工夫
 - (9) 校内研究テーマ・重点努力事項の観点から
 - ・ 表現力、指導力の向上
 - (10) その他の配慮の観点から
 - ・ 学習に関するプリントを発行する際、高いレベルと低いレベルの内容をバランスよく混ぜて作成するよう指示
 - ・ シラバスを作成し、生徒全員に配布

3 協議の中で意見交換されたこと

- ・ 学力向上には授業が一番
- ・ 家庭学習は保護者の協力が不可欠
- ・ 小中連携の困難さとその克服
- ・ 学力向上の基礎は教師と子供の信頼関係
- ・ 学力向上には学級崩壊の解決が必須
- ・ 中学校でも小学校基礎事項の再指導必要
- ・ 小中教員の交換人事も効果大
- ・ 小中出前授業の促進
- ・ 小中相互批判は非建設的

4 おわりに

協議内容を提言として集約できなかったが、各校の取り組みに参考として活用願いたい。

題字 元 仙台市立沖野中学校長 高野 睦夫 筆

発 行 平成 2 1 年 3 月 1 日

発行者 仙台市中学校長会
会 長 庄子 正剛

編集者 仙台市中学校長会
情報部会